

第92回 定時株主総会

招集ご通知

○開催日時

2022年6月23日（木曜日）午前10時

○開催場所

新潟市中央区川岸町3丁目18番地
新潟放送 本社 1階 ラジオ第1スタジオ

【株主様へのお願い】

新型コロナウイルス感染防止の観点から、本年も、出来るだけ議決権行使書のご利用をお願いします。ご来場の場合は、マスク着用をお願いします。なお、体調がすぐれないと見受けられる方には、ご来場をお控えいただきますので、あらかじめご了承ください。

議決権行使書提出期限

2022年6月22日（水曜日）
午後5時まで

*本年も、感染リスク低減のため、ご出席株主様へのお土産の配布を取り止めさせていただきます。

○目次

第92回定時株主総会招集ご通知	1
株主総会参考書類	3

添付書類

事業報告	12
計算書類	30
監査報告書	44

(証券コード 9408)
2022年6月7日

株 主 各 位

新潟市中央区川岸町3丁目18番地

株式会社**新潟放送**

代表取締役社長 佐藤 隆夫

第92回定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、当社第92回定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご通知申し上げます。

当日ご出席されない場合は、書面により議決権を行使することができますので、後記の「株主総会参考書類」をご検討のうえ、同封の議決権行使書用紙に賛否をご表示いただき

2022年6月22日（水曜日）午後5時までに議決権をご行使くださいますようお願い申し上げます。

敬 具

記

1. 日 時 2022年6月23日（木曜日）午前10時
2. 場 所 新潟市中央区川岸町3丁目18番地
新潟放送 本社 1階 ラジオ第1スタジオ
3. 会議の目的事項
報告事項 1. 第92期（2021年4月1日から2022年3月31日まで） 事業報告の内容報告の件
2. 第92期（2021年4月1日から2022年3月31日まで） 計算書類の内容報告の件

決 議 事 項

- 第1号議案 剰余金の処分の件
- 第2号議案 定款一部変更の件
- 第3号議案 取締役10名選任の件
- 第4号議案 監査役 1名選任の件

以 上

~~~~~  
◎当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。

◎株主総会参考書類並びに事業報告及び計算書類に修正すべき事情が生じた場合は、インターネット上の当社ウェブサイト (<https://www.ohbsn.com>) に掲載させていただきます。

## 株主様から事前のご質問

新型コロナウイルス感染防止の観点から外出を控えられる株主の皆様より、第92回定時株主総会への事前のご質問を、電子メールにて受付けいたします。  
ご質問のある株主様は、下記のアドレスに必要な事項を記入し、お送りください。

**受付期間：**2022年6月6日（月曜日）～2022年6月17日（金曜日）

**必要事項：** お名前 議決権行使書に記載された株主番号

**メールアドレス：**bsn-soukai@bsn-niigata.co.jp

※お受けしたご質問で株主の皆様の関心が高いと思われる事項につきまして定時株主総会で取り上げさせていただく予定です。また、後日当社ウェブサイト I R 情報で公表いたします。

※ご質問した株主様のお名前を公表することはいたしません。

※なお、すべてのご質問にお答えできるわけではございませんのでご了承をお願いいたします。

※取り上げることができなかつたご質問につきましては今後の参考とさせていただきます。

# 株主総会参考書類

## 第1号議案 剰余金の処分の件

当社は、長期にわたる安定した経営基盤のもとに株主の皆様へ安定的な配当を継続することを経営の基本方針の一つとして位置づけております。

この基本方針のもとに、今後のラジオ放送並びにテレビ放送の技術革新や強靱化に向けた設備投資、災害時でも放送を継続できる社屋の改修工事に備えるため、期末配当及びその他の剰余金の処分につきましては、次のとおりといたしたいと存じます。

### 1. 期末配当に関する事項

#### (1) 配当財産の種類

金銭といたします。

#### (2) 配当財産の割当てに関する事項及びその総額

当期は会社創立70周年にあたりますので、普通株式1株につき3円75銭の普通配当に、70周年の記念配当として1株につき1円25銭を加え、合計5円といたしたいと存じます。

この場合の配当総額は29,994,490円となります。

なお、これによりまして年間配当金は、既に実施いたしました中間配当の5円（普通配当3円75銭 記念配当1円25銭）と合わせて、1株につき10円となります。

#### (3) 剰余金の配当が効力を生じる日

2022年6月24日といたしたいと存じます。

### 2. その他の剰余金の処分に関する事項

#### (1) 減少する剰余金の項目とその額

繰越利益剰余金 500,000,000円

#### (2) 増加する剰余金の項目とその額

放送設備更新積立金 300,000,000円

社屋改修積立金 200,000,000円

## 第2号議案 定款一部変更の件

### 1. 提案の理由

「会社法の一部を改正する法律」(令和元年法律第70号)附則第1条ただし書きに規定する改正規定が2022年9月1日に施行されることに伴い、株主総会資料の電子提供制度が導入されることとなりますので、次のとおり定款を変更するものであります。

- (1) 株主総会参考書類等の内容である情報について電子提供措置をとる旨を定款に定めることが義務付けられることから、変更案第14条(電子提供措置等)第1項を新設するものであります。
- (2) 株主総会参考書類等の内容である情報について電子提供措置をとる事項のうち、書面交付を請求した株主に交付する書面に記載する事項の範囲を法務省令で定める範囲に限定することができるようにするため、変更案第14条(電子提供措置等)第2項を新設するものであります。
- (3) 株主総会資料の電子提供制度が導入されますと、現行定款第14条(株主総会参考書類等のインターネット開示とみなし提供)の規定は不要となるため、これを削除するものであります。
- (4) 上記の新設及び削除される規定の効力に関する附則を設けるものであります。なお、本附則は期日経過後に削除するものいたします。

### 2. 変更の内容

変更の内容は、次のとおりであります。

(下線部分は変更箇所を示しております。)

| 現 行 定 款                                                                                                                                                            | 変 更 案 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| <u>(株主総会参考書類等のインターネット開示とみなし提供)</u><br>第14条 当社は、株主総会の招集に際し、株主総会参考書類、事業報告、計算書類および連結計算書類に記載または表示をすべき事項に係わる情報を、法務省令に定めるところに従いインターネットで開示することにより、株主に対して提供したものとみなすことができる。 | (削 除) |

| 現 行 定 款 | 変 更 案                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (新 設)   | <p>(電子提供措置等)</p> <p>第14条 当社は、株主総会の招集に際し、株主総会参考書類等の内容である情報について電子提供措置をとる。</p> <p>2 当社は、電子提供措置をとる事項のうち法務省令で定めるものの全部又は一部について、議決権の基準日までに書面交付請求をした株主に対して交付する書面に記載することを要しないものとする。</p>                                                                                                    |
| (新 設)   | <p>(附則)</p> <p>(株主総会資料の電子提供に関する経過措置)</p>                                                                                                                                                                                                                                          |
| (新 設)   | <p>第1条 定款第14条（株主総会参考書類等のインターネット開示とみなし提供）の削除及び定款第14条（電子提供措置等）の新設は、2022年9月1日から効力を生ずるものとする。</p> <p>2 前項の規定にかかわらず、2022年9月1日から6か月以内の日を株主総会の日とする株主総会については、定款第14条（株主総会参考書類等のインターネット開示とみなし提供）は、なお効力を有する。</p> <p>3 本条の規定は、2022年9月1日から6か月を経過した日又は前項の株主総会の日から3か月を経過した日のいずれか遅い日後にこれを削除する。</p> |

### 第3号議案 取締役10名選任の件

取締役全員は、本総会終結の時をもって任期満了となりますので、本総会におきまして取締役10名の選任をお願いいたしたいと存じます。

取締役候補者は次のとおりであります。

| 候補者番号 | 候補者氏名 | 現在、当社での地位 |    |    |    |
|-------|-------|-----------|----|----|----|
| 1     | 佐藤隆夫  | 代表取締役社長   | 再任 |    |    |
| 2     | 島田好久  | 専務取締役     | 再任 |    |    |
| 3     | 大竹正敏  | 常務取締役     | 再任 |    |    |
| 4     | 五十嵐幹史 | 取締役       | 再任 |    |    |
| 5     | 宮腰尊史  | 取締役       | 再任 |    |    |
| 6     | 谷内 聡  | 取締役       | 再任 |    |    |
| 7     | 佐藤 明  |           | 新任 | 社外 |    |
| 8     | 並木富士雄 | 取締役       | 再任 | 社外 |    |
| 9     | 島田喜広  | 取締役       | 再任 | 社外 |    |
| 10    | 山井 太  | 取締役       | 再任 | 社外 | 独立 |

取締役候補者に特に期待する分野

※各候補者につき3つまで記載しています。

| 候補者番号 | 氏名    | 企業経営 | 財務・会計 | 人材開発 | 営業・販売 | コンテンツ開発 | 事業戦略 |
|-------|-------|------|-------|------|-------|---------|------|
| 1     | 佐藤隆夫  | ○    |       |      |       | ○       | ○    |
| 2     | 島田好久  | ○    |       |      | ○     |         | ○    |
| 3     | 大竹正敏  | ○    |       |      | ○     | ○       |      |
| 4     | 五十嵐幹史 |      |       | ○    | ○     | ○       |      |
| 5     | 宮腰尊史  |      | ○     | ○    |       | ○       |      |
| 6     | 谷内 聡  |      |       |      | ○     | ○       | ○    |
| 7     | 佐藤 明  | ○    |       |      |       | ○       | ○    |
| 8     | 並木富士雄 | ○    | ○     |      |       |         | ○    |
| 9     | 島田喜広  | ○    |       |      |       | ○       | ○    |
| 10    | 山井 太  | ○    |       | ○    |       |         | ○    |

| 候補者番号                                                                      | 氏名<br>(生年月日)                                                                            | 略歴、当社における地位、担当<br>及び重要な兼職の状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|----------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p style="text-align: center;">1</p> <p style="text-align: center;">再任</p> | <p style="text-align: center;">佐藤 隆夫<br/>(1958年6月21日生)</p> <p>所有する当社の株式数<br/>6,100株</p> | <p>1982年4月 (株)新潟放送 入社<br/> 2007年4月 当社報道制作局情報センター報道担当部長<br/> 2008年4月 当社報道制作局情報センター制作担当部長<br/> 2009年6月 当社経営管理局秘書部長<br/> 2011年7月 当社経営管理局次長兼社長室長兼人事部長<br/> 2013年6月 当社事業局長<br/> 2015年4月 当社東京支社長兼営業副本部長<br/> 2015年6月 当社取締役東京支社長兼営業副本部長<br/> 2017年6月 当社代表取締役社長 (現在に至る)</p> <p>取締役候補者とした理由<br/> 佐藤隆夫氏は、当社社長に就任以来、経営の重要事項の決定及び業務執行に対する監督など社業の発展に努めております。報道・番組制作・事業分野など、これまでの経験と実績は、当社グループの企業価値の向上に寄与するものと期待されることから、取締役候補者いたしました。</p> |
| <p style="text-align: center;">2</p> <p style="text-align: center;">再任</p> | <p style="text-align: center;">島田 好久<br/>(1958年3月16日生)</p> <p>所有する当社の株式数<br/>5,300株</p> | <p>1989年10月 (株)新潟放送 入社<br/> 2011年4月 当社営業局長<br/> 2013年6月 当社取締役東京支社長<br/> 2015年4月 当社取締役編成局長 番組審議会担当<br/> 2017年3月 当社取締役放送本部長<br/> 2017年6月 当社常務取締役放送本部長<br/> 2018年4月 当社常務取締役経営戦略室長<br/> 2019年6月 当社専務取締役経営戦略室長<br/> 2020年4月 当社専務取締役 (現在に至る)</p> <p>取締役候補者とした理由<br/> 島田好久氏は、当社専務取締役として、民放経営に関する十分な実績を残しており、これまでの経験から、経営戦略の立案等に貢献するものと期待され、取締役候補者いたしました。</p>                                                                       |
| <p style="text-align: center;">3</p> <p style="text-align: center;">再任</p> | <p style="text-align: center;">大竹 正敏<br/>(1960年8月9日生)</p> <p>所有する当社の株式数<br/>1,700株</p>  | <p>1983年4月 (株)新潟放送 入社<br/> 2010年4月 当社経営管理局総務部長<br/> 2013年7月 当社報道制作局次長兼情報センター報道担当部長<br/> 2017年3月 当社放送本部情報センター長 (局長)<br/> 2017年6月 当社取締役経営管理本部長<br/> 2019年6月 当社常務取締役営業本部長 (現在に至る)</p> <p>取締役候補者とした理由<br/> 大竹正敏氏は、当社常務取締役として、経営管理の分野で実績を残してきました。経営に関する豊富な経験と知識を有しており、取締役候補者いたしました。</p>                                                                                                                                          |



| 候補者番号       | 氏名<br>(生年月日)                                         | 略歴、当社における地位、担当<br>及び重要な兼職の状況                                                                                                                                                                                                                                                 |
|-------------|------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4<br><br>再任 | 五十嵐 幹史<br>(1959年10月13日生)<br><br>所有する当社の株式数<br>2,000株 | 1982年 4月 (株)新潟放送 入社<br>2007年 4月 当社報道制作局情報センター制作担当部長<br>2008年 4月 当社報道制作局情報センター報道担当部長<br>2013年 6月 当社報道制作局長兼情報センター長<br>2015年 4月 当社長岡支社長<br>2016年 6月 当社常勤監査役<br>2020年 6月 当社取締役メディア本部長兼技術局長<br>2021年 4月 当社取締役メディア本部長兼編成局長兼技術局長<br>番組審議会事務局長<br>2022年 4月 当社取締役メディア本部長兼技術局長 (現在に至る) |
|             |                                                      | 取締役候補者とした理由<br>五十嵐幹史氏は、番組制作、報道などの部門で、十分な実績を残しており、常勤監査役として、会社業務全般を監督してきた経験も有しており、取締役候補者いたしました。                                                                                                                                                                                |
| 5<br><br>再任 | 宮腰 尊史<br>(1961年3月24日生)<br><br>所有する当社の株式数<br>300株     | 1983年 4月 (株)新潟放送 入社<br>2008年 4月 当社長岡支社営業部長<br>2010年 4月 当社テレビ編成部長<br>2012年 4月 当社報道制作局情報センターテレビ制作担当部長<br>2017年 7月 当社東京支社長<br>2019年 7月 当社執行役員経営管理本部長<br>2020年 6月 当社取締役経営管理本部長兼CSR推進室長<br>2022年 4月 当社取締役経営管理本部長兼経営管理局長(現在に至る)                                                    |
|             |                                                      | 取締役候補者とした理由<br>宮腰尊史氏は、番組制作を中心とした放送全般で実績を残してきました。これまでの経験を活かし、当社事業の業務執行を適切に遂行できると判断し、取締役候補者いたしました。                                                                                                                                                                             |
| 6<br><br>再任 | 谷内 聡<br>(1961年4月6日生)<br><br>所有する当社の株式数<br>4,000株     | 1985年 4月 (株)新潟放送 入社<br>2011年 4月 当社営業局営業部長<br>2015年 4月 当社事業局次長<br>2016年 6月 当社長岡支社長<br>2019年 6月 当社執行役員営業本部副本部長兼東京支社長<br>2021年 6月 当社取締役営業本部副本部長兼東京支社長<br>(現在に至る)                                                                                                                |
|             |                                                      | 取締役候補者とした理由<br>谷内聡氏は、当社において営業分野で実績を残してきました。これまでの経験を活かし、当社の事業に関する意思決定及び業務執行を適切に遂行できると判断し、新たに取締役候補者いたしました。                                                                                                                                                                     |

| 候補者番号                                                                                                                                                                                                                                                       | 氏名<br>(生年月日)                                                                                                                   | 略歴、当社における地位、担当<br>及び重要な兼職の状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p style="text-align: center; font-size: 24pt;">7</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">新任</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">社外</div> | <p style="text-align: center;">さとう あきら<br/>佐藤 明<br/>(1958年1月4日生)</p> <p style="text-align: center;">所有する当社の株式数<br/>0株</p>      | <p>1981年4月 (株)新潟日報社 入社<br/> 2008年4月 (株)新潟日報社編集局報道本部報道部長<br/> 2014年3月 (株)新潟日報社執行役員編集制作統括本部副本部長<br/> 兼編集局長<br/> 2016年3月 (株)新潟日報社取締役営業統括本部長<br/> 2018年3月 (株)新潟日報社常務取締役営業統括本部長<br/> 2020年3月 (株)新潟日報社専務取締役営業統括本部長<br/> 2022年3月 (株)新潟日報社代表取締役社長 (現在に至る)</p> <p>社外取締役候補者とした理由および期待される役割<br/> 佐藤明氏は、地元密着の紙面で地域経済、社会、文化の向上に努める(株)新潟日報社の経営者として、様々なメディアが複合的に展開する現況のもと、報道機関の役割など総合的な見地から当社にアドバイスを与えることができる存在であることから、新たに社外取締役候補者いたしました。</p>                                                             |
| <p style="text-align: center; font-size: 24pt;">8</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">再任</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">社外</div> | <p style="text-align: center;">なみ き ふじお<br/>並木 富士雄<br/>(1951年6月20日生)</p> <p style="text-align: center;">所有する当社の株式数<br/>0株</p>  | <p>1975年4月 (株)第四銀行 入行<br/> 2005年6月 (株)第四銀行取締役三条支店長<br/> 2008年4月 (株)第四銀行常務取締役営業本部長<br/> 2011年6月 (株)第四銀行専務取締役<br/> 2012年6月 (株)第四銀行取締役頭取<br/> 2013年6月 当社社外取締役 (現在に至る)<br/> 2018年10月 (株)第四北越フィナンシャルグループ 代表取締役社長<br/> 2021年1月 (株)第四北越銀行取締役頭取<br/> 2021年4月 (株)第四北越フィナンシャルグループ 代表取締役会長 (現在に至る)</p> <p>社外取締役候補者とした理由および期待される役割<br/> 並木富士雄氏は、(株)第四北越フィナンシャルグループの経営者として、専門性の高い見識を有しており、経営全般に関し、重要な示唆を与えることのできる存在として、社外取締役候補者いたしました。</p>                                                              |
| <p style="text-align: center; font-size: 24pt;">9</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">再任</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">社外</div> | <p style="text-align: center;">しま だ よしひろ<br/>島田 喜広<br/>(1960年12月10日生)</p> <p style="text-align: center;">所有する当社の株式数<br/>0株</p> | <p>1984年4月 (株)東京放送 入社<br/> 2009年4月 (株)TBSテレビ報道局ニュースセンター長<br/> 2012年2月 TBSInternational,Inc.出向 President<br/> 兼(株)TBSテレビ報道局ニューヨーク支局長<br/> 2015年4月 (株)TBSテレビ情報制作局長<br/> 2018年7月 (株)TBSテレビ総合戦略室担当局長<br/> (株)テレパック現職出向、同社代表取締役社長<br/> 2019年7月 (株)TBSテレビグループデザイン局担当局長<br/> (株)テレパック現職出向、同社代表取締役社長<br/> 2020年6月 (株)TBSテレビ 執行役員 (現在に至る)<br/> 当社社外取締役 (現在に至る)</p> <p>社外取締役候補者とした理由および期待される役割<br/> 島田喜広氏は、TBSグループの中核である(株)TBSテレビにおいて報道分野・番組制作分野で豊富な知見を有し、当社に重要な指針を与えることのできる存在として社外取締役候補者いたしました。</p> |

| 候補者番号 | 氏名<br>(生年月日)                        | 略歴、当社における地位、担当<br>及び重要な兼職の状況                                                                                                                                                                                                                                        |
|-------|-------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 10    | やま い とおる<br>山 井 太<br>(1959年12月18日生) | 1986年7月 (株)ヤマコウ(現 スノーピーク)入社<br>1989年1月 (株)スノーピーク取締役事業部長<br>1992年1月 (株)スノーピーク常務取締役<br>1992年8月 (株)スノーピーク代表取締役副社長<br>1996年12月 (株)スノーピーク代表取締役<br>2016年3月 (株)スノーピーク代表取締役社長<br>2019年7月 Snow Peak USA,inc CEO<br>2020年3月 (株)スノーピーク代表取締役会長(現在に至る)<br>2021年6月 当社社外取締役(現在に至る) |
| 再任    | 所有する当社の株式数<br>0株                    |                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 社外    |                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 独立    |                                     | 社外取締役候補者とした理由および期待される役割<br>山井太氏は、アウトドア分野を中心に常に高い見地から卓越した経営手腕を発揮してきました。これまで多岐にわたる分野で培った幅広く深い知見と経験で、当社に有益な意見・提言等をいただける存在として、社外取締役候補者となりました。                                                                                                                           |

- (注) 1. 佐藤明、並木富士雄、島田喜広、山井太の4氏は社外取締役候補者であります。
2. 取締役候補者と当社との特別の利害関係は次のとおりであります。
- (1) 佐藤明氏が代表取締役社長である(株)新潟日報社は、当社の筆頭株主であるとともに、報道部門等において当社と密接な業務提携関係にあります。
  - (2) 並木富士雄氏が代表取締役会長である(株)第四北越フィナンシャルグループの中核である(株)第四北越銀行は、当社の主力取引銀行であります。
  - (3) 島田喜広氏が執行役員である(株)TBSテレビは当社加盟のJNNネットワークのキー局であり、ニュース取材、番組、技術、営業面で、密接な関係を築いております。
  - (4) 他の取締役候補者との間には特別の利害関係はありません。
3. 社外取締役候補者に関する特記事項は以下の通りであります。
- (1) 独立役員について山井太氏は東京証券取引所の定めに基づく独立役員の要件を満たしており、引き続き独立役員とする予定です。
  - (2) 社外取締役に就任してからの年数について、本総会終結の時をもって、並木富士雄氏は9年、島田喜広氏は2年、山井太氏は1年であります。
  - (3) 当社は、従来より社外役員との責任限定契約についてはこれを締結しておらず、上記の社外取締役候補者につきましても契約締結は予定しておりません。
4. 当社は、取締役・監査役を被保険者として、役員等賠償責任保険(D&O保険)契約を締結しており、被保険者である役員がその職務の執行に関し、責任を負うことまたは当該責任の追及に係る請求を受けることによって生ずることのある損害が補填されます。保険料は全額会社が負担しております。故意または重過失に起因する損害賠償請求は当該保険契約により補填されません。取締役候補者が承認された場合、当該保険契約の被保険者になります。当社は次回更新時に当該保険契約を同様の内容で更新する予定です。

#### 第4号議案 監査役1名選任の件

監査役高橋道映氏は、本総会終結の時をもって辞任により退任されますので、監査役1名の補欠選任をお願いいたしたいと存じます。

本監査役候補者の任期は、当社定款（第33条）の定めにより、退任した監査役の任期の満了する時までとなります。

なお、本議案に関しましては、監査役会の同意を得ております。

監査役候補者は次のとおりであります。

|    | 氏名<br>(生年月日)                                                                                               | 略歴、当社における地位、担当<br>及び重要な兼職の状況                                                                                                                                                                     |
|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 新任 | おだとしぞう<br>小田敏三<br>(1950年6月8日生)<br><br>所有する当社の株式数<br>0株                                                     | 1974年4月 (株)新潟日報社 入社<br>2008年3月 (株)新潟日報社取締役編集局長<br>2010年3月 (株)新潟日報社常務取締役営業統括本部長<br>2013年3月 (株)新潟日報社専務取締役<br>2014年3月 (株)新潟日報社代表取締役社長<br>2014年6月 当社社外取締役 (現在に至る)<br>2022年3月 (株)新潟日報社代表取締役会長 (現在に至る) |
|    | 監査役候補者とした理由<br>小田敏三氏は、(株)新潟日報社の経営者として培われた専門的な知識・経験等を活かし、当社の監査においてその職務を適切に遂行していただけるものと判断し、新たに監査役候補者といたしました。 |                                                                                                                                                                                                  |

- (注) 1. 監査役候補者と当社との特別の利害関係は次のとおりであります。  
 小田敏三氏が代表取締役会長である(株)新潟日報社は、当社の筆頭株主であるとともに、報道部門等において当社と密接な業務提携関係にあります。なお、小田敏三氏は当社取締役の経験があるため、社外監査役となる候補者ではありません。
2. 監査役候補者に関する特記事項は次のとおりであります。  
 当社は、従来より小田敏三氏との責任限定契約についてはこれを締結しておらず、監査役候補者につきましても契約締結は予定しておりません。
3. 役員等賠償責任保険契約について  
 当社は、取締役・監査役を被保険者として、役員等賠償責任保険（D&O保険）契約を締結しており、被保険者である役員がその職務の執行に関し、責任を負うことまたは当該責任の追及に係る請求を受けることによって生ずることのある損害が補填されます。保険料は全額会社が負担しております。故意または重過失に起因する損害賠償請求は当該保険契約により補填されません。監査役候補者が承認された場合、当該保険契約の被保険者になります。当社は次回更新時に当該保険契約を同様の内容で更新する予定です。

以上

(添付書類)

## 事業報告

(2021年4月1日から2022年3月31日まで)

### 1. 会社の現況に関する事項

#### (1) 事業の経過及び成果

当期におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、各種イベントや行事が中止または延期で経済活動が制限を受け、厳しい状況となりました。これにより企業収益や雇用・所得環境も依然として厳しい状態が続きました。ワクチン接種の普及による感染者数の減少や各種経済施策の効果もあり、一時的に緩やかな回復基調も見られましたが、新たな変異株の急速な拡大に加え、ウクライナ情勢の悪化による原油価格の高騰、株価と為替の急変動などにより、経済の冷え込みが懸念され、景気の先行きは不透明な状況が続いています。

このような状況の中で、当期の営業収益は57億7千1百万円と、前期に比べ1.8%の増収となりました。利益面におきましては、営業費用は増加となったものの、経常利益は3億8千5百万円と、前期に比べ9.0%の増益となりました。最終的な当期純利益でも3億5千5百万円と、前期に比べ35.2%の増益となりました。

部門別の概況は次のとおりであります。

#### ラジオ部門

当期ラジオ収入は、前期比1.4%増の6億6千9百万円となりました。スポット出稿は大幅な減少となりましたが、レギュラータイムを中心にタイム出稿が堅調に推移し、売り上げを押し上げました。

番組では2021年4月、数年ぶりの大きな改編を実施しました。朝の時間帯の「石塚かおりのBrand newday」はパーソナリティーを固定し、コーナーも整理したことにより、情報だけでなく音楽も楽しめる番組になりました。また、2020年のFMPORT閉局に伴いスタートさせた2番組のうち、遠藤麻理の「四畳半スタジオ」は30分拡大させ、金曜日の放送も始めました。一方、土曜日午後からの放送だった「立石勇生SUNNYSIDE」は、開始を午前10時からと早め、5時間の生放送番組としました。

番組改編の効果に在宅時間増加の影響も加わり、BSNラジオのradiko（ラジオ放送がパソコンやスマートフォンで聴けるサービス）の1か月の再生回数は、12月と2月に月間130万回を超えて前年比の2.2倍、一昨年比の4倍超となり、全国のラジオ局の中でも顕著な伸びとなりました。

ウイルス禍の中、「ラジオ放送+YouTube配信」の取り組みにいっそう力を入れました。7月

の「BSN夏ラジオ～祭～」では、6時間の生放送で配信動画の再生回数は2万回を超え、前年の1.5倍に達しました。また、10月の衆院選では、ラジオ特別番組「なんぐ・りせこの開票天国」もYouTubeで配信しました。再生回数は1万2000回に達し、ローカル局の配信番組では異例の再生回数を記録しました。

災害時の情報収集ツールとして、ラジオ放送の体制強化も進めています。2022年3月16日に東北で震度6強、県内で最大震度5弱を観測した地震では、発生から15分後に緊急放送に切り替え速報しました。radikoの再生回数は通常時の3倍を超えました。

地震や大雨などの災害が相次ぐ中、ラジオの存在が改めて見直されています。音声コンテンツとしてだけでなく、相性が良いとされるSNSなどとの連携もさらに図り、新たなリスナーの獲得を目指します。

## テレビ部門

当期におけるテレビ収入は、前期比3.3%増の46億2千8百万円となりました。これは、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、大きく落ち込んだ前期に比べ、収益の柱となるスポット収入が一部で回復基調を見せたことが主な要因です。

番組制作については、放送11年目を迎えたゴールデンタイムのレギュラー番組「水曜見ナイト」（水曜午後7時～8時）では、メインパーソナリティーの伊勢みずほらが県境の人々との触れ合いを描くシリーズ「県境から行ってみずほ」を放送しました。また、地域の人から地元で活躍している3名の顔写真を手に入れ、聞き込みをしながら3名を探し出す「クイズわが町ビンゴ3」、県内企業の知られざる逸品を紹介する「浮かばれないコレクション」をスタートさせました。これまでよりもバラエティの演出を強化し、番組の年間平均視聴率(世帯)は11%を超え、東京キー局の番組と比べても遜色ない実績を上げました。さらに、民放公式テレビポータル「TVer」での番組配信を行い、視聴者層の増加を図りました。

土曜お昼のレギュラー番組「土曜ランチTV なじラテ。」（土曜午後0時10分～午後2時）では、飲食店の味の秘密を探る「グルメ大捜査」が、飲食業界からも注目されるほど評判となり、看板コーナーとなりました。レポートは、新潟の女性タレント3名を新たに起用し、個性を生かした演出となっています。また、視聴者アンケートなどをもとに様々なテーマで「ベスト10」を当てるクイズ「なじラ10」は、視聴者との双方向性を意識したコーナーとして好評を博しています。番組の視聴率は同時間帯1～2位と堅調に推移しています。

民間放送教育協会のドキュメンタリー番組「日本のチカラ」（日曜午前5時45分～6時15分）の制作にも力を入れました。6月に全国放送した阿賀町の室谷青年会を取材した番組は青年会がスパイスを栽培し、オリジナルレトルトカレーを販売することで、地域に貢献する思いを伝えました。また、11月に全国放送した津南町の特産ユリづくりは地元農家と観光業界がタッグを組んで特産ユリを町おこしにつなげようという活動を描いた番組でした。

ネット番組ではTBS制作のドラマが好調を維持しました。特に日曜よる9時に放送している日

曜劇場は今期4作品の平均視聴率が世帯で15.4%を超える高視聴率をマーク。中でも4月期に放送した「ドラゴン桜」の最終回は21.4%を獲得しました。また、日曜よりに放送中の「バナナマンのせっかくグルメ」においては、BSN新潟放送がロケ地となり「BSN社員がおすすめするせっかく接待グルメ」が放送されました。この回の放送は年度の番組平均視聴率12.1%を大きく上回る17.0%を獲得するなど、県民から大きな反響を頂きました。

報道部門では、6年目を迎えた平日夕方のレギュラー番組「BSN NEWS ゆうなび」(月・金 午後6時15分)は、「あなたの『声』を明日につなぐ」をコンセプトに情報発信を強化しました。特に新型コロナウイルス関連では、厳しい環境に置かれた感染者や医療従事者、飲食店などの不安な声を丁寧にすくいあげるよう心がけ、支援のあり方など社会で考えるきっかけとなるよう努めました。番組の年間平均視聴率は世帯で8.8%、個人全体で5.2%と、いずれも前期より1ポイント上昇しました。また、隔週の金曜日に若手企業家・渋谷修太氏を新たにコメンテーターに起用し、「今、に切り込む調査コーナー「どーいん新潟+(プラス)」を立ち上げました。放送後はアフタートークと称して、より時間をかけてテーマを掘り下げるユーチューブ配信も実施し、地上波とウェブのコラボにも力をいれました。

日々伝えるニュースを土台にした報道番組「ゆうなびスペシャル」の制作も継続しました。今期に放送した番組は、「おらがまちの華」(5月放送)、「回顧2021」(12月放送)、「雪国でそんなバナナ!」(2月放送)、「つながる一食」(3月放送)「あの日見た夢」(3月放送)の計5本に上りました。

報道部門では独自の視点で事実を明らかにすることで信頼性を高め、これまで以上に親しみやすく分かりやすいニュースの発信に努めてまいります。コロナ禍1年目で在宅率が上昇した2020年度と比較して、テレビ全体の視聴率が下がった中、自社制作番組「ゆうなび」、「水曜見ナイト」、「なじラテ。」の3番組は視聴率を伸ばすことができました。今後も県民のニーズをくみ取り、双方向性を意識した番組制作・編成に努めていきます。

## その他の部門

当期におけるその他の部門の収入は、前期比11.0%減の4億7千3百万円となりました。引き続き当期も人を集める催事に関しては新型コロナウイルスの感染状況を鑑みながらの開催となりました。上期に新潟県立万代島美術館で開催しました「大地のハンター展-陸の上にも4億年-」は混雑を避けるため30分あたり200人の入場制限を設けるなどの感染症予防対策を実施する中、夏休みのお子様連れを中心に4万4,000人に来場していただきました。ハードオフエコスタジアム新潟で開催したプロ野球公式戦「横浜DeNAベイスターズ対東京ヤクルトスワローズ」は入場率最大50%の制限下での初めての大型スポーツイベントとなりました。5名以下のグループディスタンスでのチケット販売、声援の禁止、規制退場の実施など様々な角度から感染症予防を徹底しました。アルコールの提供は午後8時までとウィズコロナ時代に則した開催様式で、大きなトラブルも無く、1万人余りのプロ野球ファンで賑わいました。下期には入場制限が無い

中でイベントを開催することができました。「BSN新潟放送開局70周年記念事業 反田恭平ジャパン・ナショナル・オーケストラ2020ツアー」はショパン国際ピアノコンクールで2位に入賞した直後だったこともあり、会場のりゅーとぴあコンサートホールは立見席を含め満席となる1,990席が完売、多くのお客様に楽しんでいただくことができました。

また、デジタル分野としてBSNアプリがサービス開始から3年で、ダウンロード数約9万に達しました。9割以上が県内ユーザーです。当期は、ダウンロード数の促進に加え、新潟県警と連携し「ひかるくん・ひかりちゃん安心メール」のPUSH通知配信、自社の健康寿命延伸キャンペーン「にいがたケンジュプロジェクト」と連携し歩数計機能を追加するなどコンテンツの充実を図りました。また、トライアル企画として地元アイドルグループNGT48メンバーを起用した動画「NGT48の新潟スイーツ部」を制作し、公式YouTubeやアプリで配信して新たなマネタイズにも挑戦しました。

VR映像制作では長岡工業高等専門学校の「バーチャルキャンパス構築業務」を受託し、「長岡高専VRキャンパスツアー」を制作しました。ドローン映像の制作はテレビ番組「そらなび」の放送を軸に、アーカイブした4K映像を自社ホームページを通じて一般販売したほか、再編集した番組をBS-TBSに販売しました。

BSNが「にいがたデジタルコンテンツ推進協議会」のメンバーとして参加した新潟県の「消費喚起・需要拡大プロジェクト」では、酒と花火をテーマにVtuberを起用した番組を制作し、2月に配信しました。

そのほか、持続可能な開発目標（SDGs）達成のためにも力を注ぎました。「BSNキッズプロジェクト」「BSN愛の募金」「BSNにいがた@防災」を活動の柱として、ゴール3「すべての人に健康と福祉を」ゴール4「質の高い教育をみんなに」ゴール8「働きがいも経済成長も」ゴール16「平和と公正をすべての人に」ゴール17「パートナーシップで目標を達成しよう」を重点目標に掲げて活動しています。2021年2月22日SDGメディア・コンパクトへの加盟をきっかけに、SDGsの県民への浸透をめざす活動を本格化させています。BSNニュース「ゆうなび」では「新潟からSDGs」と題して県内の様々な取り組みを紹介。また、ラジオとキッズプロジェクトのホームページ連動企画「はぐくむコラム」ではSDGs専門家をゲストに迎え、自分たちで取り組めるSDGsについて伝えています。リアルイベントでは、県内の図書館を会場に、絵本を通してSDGsについて親子で話し合うワークショップを開催。約80名の小学生親子が参加しました。2022年2月には「第1回BSN SDGs WEEK」を実施し、1週間にわたって、ラジオ・テレビの番組でSDGsについて放送。アナウンサー・パーソナリティ17名をそれぞれのゴールの担当として、「わたしのアクション」を表明し、視聴者にSDGsを自分ごととするきっかけとしてもらいました。これからも県内企業や団体とのパートナーシップで、地域の問題解決に努めます。



## (2) 設備投資等の状況

当期における設備投資は、総額6億3千5百万円であり、主なものは次のとおりです。本社設備では、JNN系列のSNG（\*1）システム更新に伴い、2008年度から使用していたSNG基地局を更新しました。また同時にSNG中継車も新SNGシステムに対応するため改修工事を行いました。SNG基地局はSNG中継車からの信号を受信する他に、キー局との間の緊急バックアップ回線としても使用するため、災害時に必須な設備です。

また、導入から15年が経過したニュースサブシステムを更新しました。今回の更新では、有事の際のラジオ・テレビ制作番組との連携力アップや、情報共有力の強化などニュースサブ本来の機能をフルに発揮できるよう、TVマスター室から報道フロアに設置場所も変更しました。

その他、取材・ライブ中継などに最適な小型軽量の高画質IPモバイル中継装置（LiveU）2式の更新、ノンリニア編集機3式の更新、CMが正常にOAされた事を確認するCM受信確認装置、テレビ法定同録装置を更新しました。

（\*1）SNG（Satellite News Gathering）通信衛星を使用して、TV中継等に使用するシステムの総称。

### (3) 資金調達状況

当期の事業資金につきましては、自己資金及び借入金、並びにリース取得により賄いました。

### (4) 対処すべき課題

当社は今年、開局70周年を迎えました。創業以来、ラジオ・テレビの放送を通して新潟県民を中心に報道・娯楽などの情報を提供してまいりましたが、テクノロジーの急速な進歩や新型コロナウイルスの影響などで、その事業環境は大きな変革期を迎えています。この70年間で培った制作力を軸に、放送から様々なメディアへと領域を広げていく、「地方放送局」から「地域メディア」へと歩みを進めてまいります。

ラジオ放送・地上波テレビ放送の広告費が減少する中、地方局にとって大切なのが地域密着です。地域や地元企業に寄り添い、一緒になって様々な課題を解決していく。こうした活動を通して新潟の持続的な発展に貢献し、新たな地域プロデュースの一翼を担いたいと考えています。このためにも欠かせないのがDXの推進です。時代や環境の変化に柔軟に対応し、デジタル技術を駆逐することで新規ビジネスを創造する。それを地域課題の解決につなげることは地域メディアの重要な使命だと感じております。

スマートフォンやタブレットの普及でメディア環境が激変する中、地域のいのちや暮らしを情報で守るというローカル放送局の使命を配信の分野でも果たしていかなくてはなりません。動画や文字情報の充実にもさらに取り組んでいきたいと考えております。

当社は国連のSDGメディア・コンパクトに加盟しています。SDGs（持続可能な開発目標）達成に向け、重点的に取り組むゴールとして「貧困をなくそう」「すべての人に健康と福祉を」「質の高い教育をみんなに」「住み続けられるまちづくりを」「パートナーシップで目標を達成しよう」の5つを掲げ、定期的に「BSN SDGs WEEK」を実施するなどラジオ・テレビ・ネットを通じ情報発信に努めています。また世界的に気運が高まっているカーボンニュートラルに対しても、消費電力を抑えるなどの企業努力を重ね、貢献してまいります。

地域メディアへの転換に必要なのがBSNグループの連携強化です。システム関連やメディアコンテンツ制作などそれぞれの強みを生かし、グループ会社間の共同事業を推し進め、持続的な成長を果たしてまいります。

70周年を迎える今年、新たなビジョンを作りました。「だれもが、自らの選んだ道を、冒険していける社会へ」です。小さくても、まずは、その一步を踏み出すことが新たな未来につながると確信しています。このビジョンのもと、70周年の年間企画として聴取者・視聴者の夢の実現を応援するユメファクトリーを各番組で展開しています。70周年を契機に当社は、県民の皆様とともに新たな冒険への一步を踏み出してまいります。株主の皆様にはより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

#### (5) 財産及び損益の状況の推移

| 区 分                | 2018年度<br>(第89期) | 2019年度<br>(第90期) | 2020年度<br>(第91期) | 2021年度<br>(第92期) |
|--------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| 売 上 高 (百万円)        | 6,709            | 6,359            | 5,672            | 5,771            |
| 経常利益 (百万円)         | 512              | 570              | 353              | 385              |
| 当 期 純 利 益<br>(百万円) | 399              | 406              | 263              | 355              |
| 1株当たり当期純利益         | 66円55銭           | 67円73銭           | 43円86銭           | 59円32銭           |
| 総 資 産 (百万円)        | 13,018           | 12,794           | 13,600           | 13,942           |
| 純 資 産 (百万円)        | 11,748           | 11,660           | 12,273           | 12,391           |

- (注) 1. 第89期におきましては、売上高は前期を下回りましたが、経常利益、当期純利益とも増益となりました。  
第90期におきましては、売上高は前期を下回りましたが、経常利益、当期純利益とも増益となりました。  
第91期におきましては、売上高、経常利益、当期純利益とも前期を下回り、減収減益となりました。  
当期につきましては、前記「(1)事業の経過及び成果」の冒頭に記載のとおりであります。
2. 1株当たり当期純利益は、期中平均発行済株式数（発行済株式総数から自己株式数を控除）に基づき算出しております。
3. 「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を当事業年度の期首から適用しており、当事業年度に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

#### (6) 重要な子会社の状況

| 会 社 名             | 資本金<br>百万円 | 出資比率<br>% | 主要な事業内容                          |
|-------------------|------------|-----------|----------------------------------|
| (株) B S N ウ ェ ー ブ | 85         | 100.0     | 建物管理及び不動産業等                      |
| (株) B S N アイネット   | 200        | 65.5      | システムインテグレーション等、ITソリューション関連事業     |
| (株) ビーアイテック       | 50         | 65.5      | ITインフラ環境の総合サービス及びIT運用サポート・保守サービス |
| (株) I T ス ク エ ア   | 80         | 56.3      | 情報化戦略立案支援、情報システム導入調達支援           |

(注) (株)ビーアイテックへの出資比率は、(株)BSNアイネットが所有する株式の間接所有分であり、また、(株)ITスクエアへの出資比率は、直接所有分及び(株)BSNアイネットが所有する株式の間接所有分であり、それぞれ当社の実質持分を示しております。

当社の連結決算における連結対象子会社は前記の重要な子会社4社であり、当期の連結売上高は210億5千1百万円（前期比2億5千7百万円減）、連結経常利益は14億4千1百万円（前期比1億7千9百万円増）、親会社株主に帰属する当期純利益は8億1千8百万円（前期比1億5千万円増）となりました。

## (7) 主要な事業内容

当社の主要な事業内容は、放送法による基幹放送事業及び一般放送事業（ラジオ・テレビの放送）であります。なお、主な収益内容につきましては部門別の概況に記載のとおりです。

## (8) 事業所及び放送所

### ① 当社

|   |   |                     |                    |           |
|---|---|---------------------|--------------------|-----------|
| 本 | 社 | 新潟県新潟市中央区川岸町3丁目18番地 |                    |           |
| 事 | 業 | 新潟県新潟市中央区万代3丁目1番1号  |                    |           |
| 長 | 岡 | 支社                  | 新潟県長岡市千歳1丁目3番43号   |           |
| 上 | 越 | 支社                  | 新潟県上越市木田1丁目2番4号    |           |
| 東 | 京 | 支社                  | 東京都港区赤坂2丁目5番8号     |           |
| 大 | 阪 | 支社                  | 大阪府大阪市西区江戸堀1丁目9番1号 |           |
| ラ | ジ | オ                   | 放送所                | (新潟県内10局) |
| デ | ジ | タル                  | テレビ放送所             | (新潟県内53局) |

### ② 子会社

|             |                      |
|-------------|----------------------|
| (株)BSNウェブ   | 新潟県新潟市中央区万代3丁目1番1号   |
| (株)BSNアイネット | 新潟県新潟市中央区米山2丁目5番地1   |
| (株)ビーアイテック  | 新潟県新潟市中央区米山1丁目11番地11 |
| (株)ITスクエア   | 新潟県新潟市中央区万代3丁目1番1号   |

(9) 従業員の状況

当社の従業員の状況 (2022年3月31日 現在)

| 従業員数 | 前期末比増減 | 平均年齢  | 平均勤続年数 |
|------|--------|-------|--------|
| 119名 | 2名減    | 42.4歳 | 18.3年  |

(10) 主要な借入先の状況 (2022年3月31日現在)

該当事項はありません。

## 2. 会社の株式に関する事項 (2022年3月31日現在)

### (1) 株式数

- ① 発行可能株式総数 10,000,000株
- ② 発行済株式総数 6,000,000株 (自己株式1,102株含)

### (2) 株主数

872名 (前期末比52名減)

### (3) 大株主

| 株主名                    | 持株数     | 持株比率 |
|------------------------|---------|------|
|                        | 株       | %    |
| 1 株式会社新潟日報社            | 852,800 | 14.2 |
| 2 越後交通株式会社             | 579,050 | 9.6  |
| 3 株式会社TBSホールディングス      | 485,000 | 8.0  |
| 4 光通信株式会社              | 449,200 | 7.4  |
| 5 株式会社第四北越銀行           | 299,600 | 4.9  |
| 6 第四北越リース株式会社          | 256,500 | 4.2  |
| 7 サトウ食品株式会社            | 136,000 | 2.2  |
| 8 株式会社エスアイエル           | 125,400 | 2.0  |
| 9 ROYAL BANK OF CANADA | 120,000 | 2.0  |
| 10 みずほ信託銀行株式会社         | 107,000 | 1.7  |

(注) 持株比率は、発行済株式総数から自己株式を控除した株式数 (5,998,898株) を基準に算出し、小数点第2位以下を切り捨てて表示しております。

### (4) その他株式に関する重要な事項

- ① 当事業年度末日における自己株式 普通株式1,102株
- ② 単元未満株式の買取りによる取得

|              |         |
|--------------|---------|
| 取得した株式の種類及び数 | 普通株式 0株 |
| 取得価額の総額      | 0円      |

(注) 期中の単元未満株式の買取りはなく、当事業年度末日における自己株式は普通株式1,102株となっております。

## 3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

## 4. 会社役員に関する事項

### (1) 取締役及び監査役の氏名等（2022年3月31日現在）

| 地 位     | 担当及び重要な兼職の状況               | 氏 名   |
|---------|----------------------------|-------|
| 代表取締役社長 | 全般統括・関係会社統括                | 佐藤隆夫  |
| 専務取締役   | 全般統括補佐                     | 島田好久  |
| 常務取締役   | 営業本部長                      | 大竹正敏  |
| 取 締 役   | メディア本部長・編成局長・技術局長          | 五十嵐幹史 |
| 取 締 役   | 経営管理本部長・CSR推進室長            | 宮腰尊史  |
| 取 締 役   | 営業本部副本部長・東京支社長             | 谷内聡   |
| 取 締 役   | (株)新潟日報社 代表取締役会長           | 小田敏三  |
| 取 締 役   | (株)第四北越フィナンシャルグループ 代表取締役会長 | 並木富士雄 |
| 取 締 役   | TBSテレビ 執行役員                | 島田喜広  |
| 取 締 役   | (株)スノーピーク代表取締役会長           | 山井太   |
| 監査役（常勤） |                            | 小原弘志  |
| 監 査 役   | (株)新潟日報社 顧問                | 高橋道映  |
| 監 査 役   | 税理士                        | 瀬賀弥平  |
| 監 査 役   | (株)和田商会代表取締役社長             | 和田晋弥  |

- (注) 1. 2021年6月24日開催の第91回定時株主総会終結の時をもって、梅津雅之氏は任期満了により取締役を退任いたしました。
2. 2021年6月24日開催の第91回定時株主総会において、新たに谷内聡氏、山井太氏が取締役に選任され、それぞれ就任いたしました。
3. 取締役のうち、小田敏三、並木富士雄、島田喜広、山井太の各氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
4. 取締役山井太氏は、東京証券取引所の定めに基づく独立役員であります。
5. 監査役のうち高橋道映氏は、当社取締役の経歴があるため、社外監査役にはあたりません。
6. 監査役のうち、瀬賀弥平、和田晋弥の各氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
7. 監査役瀬賀弥平氏は、税理士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。
8. 監査役和田晋弥氏は、東京証券取引所の定めに基づく独立役員であります。
9. 当社は、取締役・監査役を被保険者として、役員等賠償責任保険（D&O保険）契約を締結しており、被保険者である役員がその職務の執行に関し、責任を負うことまたは当該責任の追及に係る請求を受けることによって生ずることのある損害が補填されます。保険料は全額会社が負担しております。故意または重過失に起因する損害賠償請求は当該保険契約により補填されません。

## (2) 取締役及び監査役の報酬等の額

### ① 当事業年度に係る報酬等

| 区 分                | 支払人員        | 報酬等の総額                       |
|--------------------|-------------|------------------------------|
| 取 締 役<br>(うち社外取締役) | 11名<br>(4名) | 143,068,500円<br>(9,180,000円) |
| 監 査 役<br>(うち社外監査役) | 4名<br>(2名)  | 24,132,000円<br>(6,120,000円)  |

- (注) 1.上記は2021年6月24日開催の第91回定時株主総会終結の時をもって退任した取締役1名を含んでおります。
- 2.当社は、代表取締役などの業務執行取締役（社外取締役を除く）の報酬については、総額の限度額を株主総会の決議で決定したうえで、代表取締役社長佐藤隆夫が取締役会からの委任を受けて、限度額の範囲内で個別の報酬額を決定しております。
- 3.取締役の報酬限度額は、2007年6月28日開催の第77回定時株主総会において年額240,000千円以内（うち社外取締役分は年額20,000千円）と決議されています。
- 4.監査役の報酬限度額は、2007年6月28日開催の第77回定時株主総会において年額36,000千円以内と決議されています。
- 5.業務執行取締役の報酬は、業績予想額に対して営業利益の達成率を基準とした業績連動型報酬をすべてとしております。
- この他、株式などの非金銭的報酬等は設けておりません。
- ② 当事業年度に支払った役員退職慰労金  
2017年6月29日開催の第87回定時株主総会の決議に基づき役員退職慰労金として退任した取締役1名に対し21,780,000円を支払っております。



(3) 社外役員に関する事項 (2022年3月31日現在)

| 氏名<br>(当社での地位)   | 他の法人等における<br>重要な兼職の状況     | 期待される役割に関して行った職務の概要<br>(取締役会及び監査役会への出席状況等)                                |
|------------------|---------------------------|---------------------------------------------------------------------------|
| 小田敏三<br>(社外取締役)  | (株)新潟日報社代表取締役会長           | 当期開催の取締役会7回のうち7回に出席し、地元マスコミ界の指導的な立場から適切な提言を行っており、経営全般への助言など十分に役割を果たしています。 |
| 並木富士雄<br>(社外取締役) | (株)第四北越フィナンシャルグループ代表取締役会長 | 当期開催の取締役会7回のうち4回に出席し、地元経済界における中心的な役割を担う立場から積極的な発言を行っており、的確な助言をしています。      |
| 島田喜広<br>(社外取締役)  | (株)TBSテレビ執行役員             | 当期開催の取締役会7回のうち7回に出席し、放送業界での豊富な経験と幅広い知識に基づき有意義なアドバイスを行っており、責務を十分に発揮しています。  |
| 山井太<br>(社外取締役)   | (株)スノーピーク代表取締役会長          | 就任以来、取締役会5回のうち5回に出席し、アウトドア分野を中心に培った卓越した経営手腕をもとに、有益な意見を積極的に発言しています。        |
| 瀬賀弥平<br>(社外監査役)  | 税理士                       | 当期開催の取締役会7回、監査役会6回全てに出席し、専門的な知識と経験に基づき適宜発言を行っております。                       |
| 和田晋弥<br>(社外監査役)  | (株)和田商会代表取締役社長            | 当期開催の取締役会7回、監査役会6回全てに出席し、企業経営者としての豊かな経験に基づき適宜発言を行っております。                  |

- (注) 1. 取締役 小田敏三氏が代表取締役会長である(株)新潟日報社は、当社の筆頭株主であるとともに、当社は報道部門をはじめとするあらゆる部門において同社と密接な業務提携の関係にあります。
2. 取締役 並木富士雄氏が代表取締役会長である(株)第四北越フィナンシャルグループの中核である(株)第四北越銀行は、事業資金調達における当社の主要な借入先であります。
3. 取締役 島田喜広氏が執行役員である(株)TBSテレビは、当社が加盟するJNNネットワークのキー局で、ニュース取材、番組、技術、営業面での協力関係など当社の企業価値を維持するために不可欠な存在であり、多くの分野において密接な関係を築いております。
4. その他の重要な兼職先と当社との間に、特別な関係はありません。
5. 当社は、社外役員との責任限定契約についてはこれを締結しておりません。

## 5. 会計監査人の状況

### (1) 会計監査人の名称

新宿監査法人

### (2) 会計監査人の報酬等の額

|                                        | 金額          |
|----------------------------------------|-------------|
| ①公認会計士法第2条第1項の業務に係る報酬等の額               | 22,800,000円 |
| ②当社及び当社子会社が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額 | 22,800,000円 |

- (注) 1. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査に対する報酬等の額と金融商品取引法に基づく監査に対する報酬等の額を明確に区分しておらず、かつ、実質的にも区分できないため、上記①の報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。
2. 当社監査役会は、過年度における会計監査人の監査契約と実績の状況を確認するとともに監査時間及び報酬等の推移を検証したうえで、当事業年度に係る監査契約の締結にあたり取締役及び会計監査人から示された監査計画（監査日程、配員、重点項目）及び報酬額の見積りの内容を検討した結果、当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額は相当であると判断し、会社法第399条第1項の同意を行いました。

### (3) 非監査業務の内容

当社は、会計監査人に対して、公認会計士法第2条第1項の業務以外の業務を委託しておりません。

### (4) 会計監査人の解任または不再任の決定の方針

当社では、会計監査人が会社法第340条第1項に定める解任事由に該当すると認められ、かつ改善の見込みがないと判断した場合には、監査役会が監査役全員の同意に基づき、会計監査人を解任いたします。

また、監査役会は、会計監査人の職務遂行状況、監査体制、独立性などが適切であるか検討し、その必要があると認められる場合には、監査役会の決議によって、会計監査人の解任または不再任の議案を株主総会に提案いたします。

## 6. 会社の体制及び方針

### (1) 業務の適正を確保するための体制（内部統制システムの基本方針）

当社は「県民のための放送局」として、ラジオ、テレビ等の番組を通じて公共の福祉、文化の向上、産業と経済の繁栄に寄与することを経営の基本理念とし、聴取者、視聴者に良質で信頼される番組を放送することにより、企業価値の向上を図り、長期にわたり安定的な経営基盤の確保に努めることを経営の基本方針としております。

当社は、経営の基本理念と基本方針を推進・実現するため、会社法第362条第4項第6号に規定する「業務の適正を確保するための体制」（内部統制システム）について以下のとおり決議いたしました。

#### 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- ① 「新潟放送コンプライアンス憲章」を制定及び公表し、法令・規範の遵守はもとより人権の尊重、健全な企業活動、適正な情報管理及び不正の防止体制についても明確にする。
- ② 代表取締役が統括する「コンプライアンス委員会」を設置し、あらゆる放送活動及び企業活動における「新潟放送コンプライアンス憲章」の遵守を推進する。
- ③ 法令違反行為等に関する通報または相談の適正な処理の仕組みを定めた「公益通報者保護規程」を制定し、法令違反行為等の早期発見と是正及び通報者の保護を図る。
- ④ 通報を受け付ける窓口として「コンプライアンス ホットライン」を経営管理本部内に置いて、体制を強化している。
- ⑤ 社内外における教育研修を積極的に行い、放送人及び企業人としての確固たる倫理観の養成を図る。

#### 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

- ① 「文書管理規程」を制定し、取締役等の職務の執行に資する適法、適切かつ円滑な運用を図る。
- ② 「情報開示委員会」を設置し、決算情報をはじめとする重要情報を把握、管理するとともに、適時かつ適切な情報開示を図る。
- ③ 「インサイダー取引防止規程」を制定し、株式等有価証券の取引に係る適正な情報管理を図る。
- ④ 「新潟放送個人情報保護方針」に基づき個人情報に係る諸規程を制定し、当該情報に関する適法かつ公正な情報管理を図る。

#### 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- ① 「非常事態対策委員会」を設置するとともに、「非常事態対策ハンドブック」を制定し、事件及び災害等の非常事態における従業員等の安全の確保及び放送の継続に備える。また「緊急及び災害時の報道体制要領」を定め、報道機関としての使命遂行に全力を挙げる体制を構築する。

- ② 「BSN情報セキュリティ方針」に基づき、IT関連の情報セキュリティに係る諸規程を制定し、故意、偶然によらず、情報等の改ざん、破壊、漏洩等からの保護を図る。

#### **取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制**

- ① 「新潟放送取締役会規程」に基づき、取締役会を年7回定例開催し、経営に係る執行方針、法定事項への対応、その他重要事項を決定するとともに、四半期業績をはじめとする取締役の職務の執行状況を監督する。なお、取締役会は必要に応じて随時開催する。
- ② 常勤の取締役で構成する「常務会」を原則として週1回開催し、業務執行に係る基本的事項及び重要事項に係る意思決定を機動的に行う。
- ③ 本社常勤の取締役と局長で構成する「局長連絡会議」を原則として週1回開催し、業務執行に係る意思統一を図るとともに、情報の伝達と共有化を迅速に行う。また、常勤の取締役、局長及び支社長で構成する「全社局長会議」は、原則として月1回開催する。

#### **当社グループ（企業集団）における業務の適正を確保するための体制**

- ① 「BSNグループ行動規範」を制定及び公表し、法令・規範の遵守はもとより、人権の尊重、健全な企業活動、適正な情報管理及び不正の防止体制についても明確にし、コンプライアンスに係る企業集団としての理念の統一を図る。
- ② 「関係会社経営会議」を原則として月1回開催し、各社の業績をはじめとする取締役等の職務に係る報告、審議を行うとともに、グループ全体に係る重要事項を決定し、グループ経営における健全性及び効率性の向上を図る。
- ③ 「関係会社経理担当者会議」を四半期ごとに開催し、四半期業績をはじめとする財務経理面に関する報告等を行い、当社グループにおける取締役の適正な経営判断に資する。

#### **監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制**

- ① 監査役がその職務を補助すべき使用人（兼務者を含む）を置くことを求めた場合には、監査役の職務を補助する範囲において、当該使用人の取締役からの独立性及び監査役からの指示の実効性が確保できる体制の構築を図る。
- ② 監査役が当社グループにおける業務または業績に影響を与える重要な課題を把握するため、「常務会」「局長連絡会議」「全社局長会議」「関係会社経営会議」「関係会社経理担当者会議」その他重要な会議に出席するとともに、使用人、会計監査人、子会社の監査役等に定期的かつ随時に報告を求めることができる体制の維持を図る。
- ③ 当社グループの役員及び使用人等が当社の監査役に対し、当社グループに著しい損害を及ぼす事実が生じ、または生じるおそれがある旨の報告をした場合には、「公益通報者保護規程」を準用し、当該報告者が不利な扱いを受けないことを確保する。
- ④ 監査役の職務の執行について生じる費用等については、会社法第388条に基づき、速やかに処理する。

## 財務報告の信頼性を確保するための体制

- ① 「金融商品取引法に基づく財務報告に係る内部統制の有効性評価に係る基本方針」に基づき当該規程を制定し、財務報告に係る内部統制の評価及び監査の実施に適応した運用を図る。
- ② 代表取締役が最高責任者となる「財務報告に係る内部統制委員会」を当社及び重要な子会社に設置し、当社グループにおける財務報告の確保を図る。

## (2) 業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要

当社は、コーポレートガバナンス・コードの実施にも意を用い、「業務の適正を確保するための体制（内部統制システムの基本方針）」に関する見直し等の検討を随時行い、取締役会において基本方針の一部改訂などを行う体制となっています。

これに伴い「取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制」においては、「文書管理規程」を改訂するなど、時宜に即した運用を図っています。

「損失の危険の管理に関する規程その他の体制」においては、「BSN情報セキュリティ方針」に基づく「情報セキュリティ総括規程」を改訂するなど、不正アクセスやウイルス等によるシステムやデータの破壊及び情報の漏洩や侵奪等に備えています。

また、「当社グループ（企業集団）における業務の適正を確保するための体制」においては、従前から定例開催している「関係会社経営会議」に加え、連結5社の常勤役員全員が出席する「BSNグループ役員会議」を定例の開催とし、中期的な経営計画等の確認を行うほか、企業集団としてのコンプライアンスに係る理念の統一に努めています。

## (3) 株式会社の支配に関する基本方針

当社は「県民のための放送局」として、ラジオ、テレビ等の放送を通じて公共の福祉、文化の向上、産業と経済の発展に寄与することを経営の基本理念としており、良質で信頼される番組を放送することにより、長期にわたる安定的な経営基盤の確保に努めております。

また、当社が株式を公開している上場企業である以上、株式市場で当社株式の自由な売買がなされることは当然のことであり、当社株式に対して大規模な買付けを企図する特定の株主等が出現したといたしましても、それに対する対応は、最終的には当社株式を保有する株主の皆様の判断に委ねられるものと認識しております。

現在のところ、当社株式の大量買付けに係る具体的な脅威等は生じておりませんが、当社といたしましては、そのような買付者が出現した場合の具体的な施策を予め定めるものではありません。

但し、万一、大量の株式取得を企図する者が現れ、その意図が前述した当社の基本理念に反し、既存の株主の利益を損なうことが明らかであると判断したときは、直ちに最も適切であると思われる措置を講じる所存です。

なお、多くの株主の皆様から負託を受けた経営者の責務として、当社株式の異動状況を常に把握するとともに、買収行為に係る法制度や世間の動向等を注視しながら、適切かつ必要な施策の検討を継続してまいりたいと存じます。

#### **(4) 剰余金の配当等の決定に関する方針**

当社は、剰余金の処分に関しては、取締役会によらず株主総会における決議事項としておりますが、その議案を上程するにあたりましては、長期にわたる安定した経営基盤のもとに、株主の皆様へ安定的な配当を継続することを基本方針の主柱としております。

また、安定した経営基盤を確保することにおいて、財務内容の改善及び事業の整備・拡充を行うために利益の一部を留保し、ラジオ、テレビ等の番組ソフトの研究開発や放送設備や社屋設備への投資に充当することも、安定かつ強固な経営基盤を確保するための重要な基本方針の一つとして位置づけております。

## 貸借対照表

(2022年3月31日現在)

| 科 目             | 金 額               | 科 目              | 金 額               |
|-----------------|-------------------|------------------|-------------------|
| (資産の部)          | 千円                | (負債の部)           | 千円                |
| <b>流動資産</b>     | <b>4,257,498</b>  | <b>流動負債</b>      | <b>1,036,148</b>  |
| 現金及び預金          | 2,634,795         | 代理店未払金           | 203,927           |
| 受取手形            | 165               | 未払金              | 271,613           |
| 売掛金             | 1,048,714         | 設備関係未払金          | 261,918           |
| 未収入金            | 414,552           | 未払法人税等           | 39,808            |
| 貯蔵品             | 3,328             | 契約負債             | 9,052             |
| その他             | 156,673           | 賞与引当金            | 133,740           |
| 貸倒引当金           | △731              | その他              | 116,086           |
| <b>固定資産</b>     | <b>9,684,636</b>  | <b>固定負債</b>      | <b>514,878</b>    |
| <b>有形固定資産</b>   | <b>3,966,156</b>  | リース債務            | 152,465           |
| 建築物             | 1,489,862         | 長期未払金            | 19,740            |
| 機械及び装置          | 209,825           | 繰延税金負債           | 342,213           |
| 車輛及び運搬具         | 602,056           | その他              | 459               |
| 工具器具及び備品        | 1,253             | <b>負債合計</b>      | <b>1,551,027</b>  |
| 土地              | 43,351            | (純資産の部)          |                   |
| リース資産           | 1,401,249         | <b>株主資本</b>      | <b>12,144,176</b> |
| 建設仮勘定           | 32,837            | 資本               | 300,000           |
| <b>無形固定資産</b>   | <b>307,800</b>    | 資本剰余金            | 5,750             |
| 借地権             | 185,719           | 資本準備金            | 5,750             |
| ソフトウェア          | 3,830             | <b>利益剰余金</b>     | <b>11,839,231</b> |
| リース資産           | 139,009           | 利益準備金            | 75,000            |
| その他             | 148,284           | その他利益剰余金         | 11,764,231        |
| <b>投資その他の資産</b> | <b>5,410,680</b>  | 放送設備更新積立金        | 2,000,000         |
| 投資有価証券          | 16,676            | 社屋改修積立金          | 800,000           |
| 関係会社株式          | 3,040,219         | 別途積立金            | 8,108,400         |
| 差入保証金           | 263,463           | 繰越利益剰余金          | 855,831           |
| 美術用品            | 14,274            | <b>自己株式</b>      | <b>△805</b>       |
| 前払年金費用          | 212,168           | 評価・換算差額等         | 246,931           |
| その他             | 1,824,766         | その他有価証券評価差額金     | 246,931           |
| 貸倒引当金           | 81,652            | <b>純資産合計</b>     | <b>12,391,108</b> |
|                 | △25,864           | <b>負債及び純資産合計</b> | <b>13,942,135</b> |
| <b>資産合計</b>     | <b>13,942,135</b> |                  |                   |

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しています。





## 株主資本等変動計算書

( 自 2021年4月1日 )  
( 至 2022年3月31日 )

| 項 目                         | 株 主 資 本     |               |                       |                     |               |                     |           |
|-----------------------------|-------------|---------------|-----------------------|---------------------|---------------|---------------------|-----------|
|                             | 資本金<br>(千円) | 資本剰余金         | 利 益 剰 余 金             |                     |               |                     |           |
|                             |             | 資本準備金<br>(千円) | 利益準備金<br>(千円)         | その他利益剰余金            |               |                     |           |
|                             |             |               | 放送設備<br>更新積立金<br>(千円) | 社屋改修<br>積立金<br>(千円) | 別途積立金<br>(千円) | 繰越利益<br>剰余金<br>(千円) |           |
| 2021年4月1日残高                 | 300,000     | 5,750         | 75,000                | 1,700,000           | 600,000       | 8,108,400           | 1,052,480 |
| 事業年度中変動額                    |             |               |                       |                     |               |                     |           |
| 放送設備更新積立金の積立                |             |               |                       | 300,000             |               |                     | △300,000  |
| 社屋改修積立金の積立                  |             |               |                       |                     | 200,000       |                     | △200,000  |
| 剰余金の配当                      |             |               |                       |                     |               |                     | △52,490   |
| 当期純利益                       |             |               |                       |                     |               |                     | 355,841   |
| 株主資本以外の項目の<br>事業年度中変動額 (純額) |             |               |                       |                     |               |                     |           |
| 事業年度中変動額合計                  | -           | -             | -                     | 300,000             | 200,000       | -                   | △196,649  |
| 2022年3月31日残高                | 300,000     | 5,750         | 75,000                | 2,000,000           | 800,000       | 8,108,400           | 855,831   |

| 項 目                         | 株 主 資 本                   |              |                | 評価・換算差額等                 | 純資産合計<br>(千円) |
|-----------------------------|---------------------------|--------------|----------------|--------------------------|---------------|
|                             | 利益剰余金<br>利益剰余金<br>合計 (千円) | 自己株式<br>(千円) | 株主資本合計<br>(千円) | その他有価証券<br>評価差額金<br>(千円) |               |
| 2021年4月1日残高                 | 11,535,880                | △805         | 11,840,826     | 432,690                  | 12,273,516    |
| 事業年度中変動額                    |                           |              |                |                          |               |
| 放送設備更新積立金の積立                | -                         |              | -              |                          | -             |
| 社屋改修積立金の積立                  | -                         |              | -              |                          | -             |
| 剰余金の配当                      | △52,490                   |              | △52,490        |                          | △52,490       |
| 当期純利益                       | 355,841                   |              | 355,841        |                          | 355,841       |
| 株主資本以外の項目の<br>事業年度中変動額 (純額) |                           |              |                | △185,759                 | △185,759      |
| 事業年度中変動額合計                  | 303,350                   | -            | 303,350        | △185,759                 | 117,591       |
| 2022年3月31日残高                | 11,839,231                | △805         | 12,144,176     | 246,931                  | 12,391,108    |

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しています。

## 個別注記表

### 重要な会計方針に係る事項

1. 棚卸資産の評価基準及び評価方法  
先入先出法による原価法によっております。  
(収益性の低下による簿価切下げの方法)
2. 有価証券の評価基準及び評価方法  
関係会社株式  
移動平均法による原価法によっております。  
その他有価証券  
市場価格のない株式等以外のもの  
時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）  
を採用しております。  
市場価格のない株式等  
主として移動平均法による原価法を採用しております。
3. 固定資産の減価償却の方法
  - (1) 固定資産（リース資産を除く）  
定額法によっております。  
（自社利用のソフトウェアについては、社内における見込利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用）
  - (2) リース資産  
所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法を採用しております。
4. 引当金の計上基準
  - (1) 貸倒引当金  
売上債権等の貸倒れ損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、また、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
  - (2) 賞与引当金  
従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。
  - (3) 退職給付引当金  
従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。  
また、当社は当事業年度末において、年金資産の額が退職給付債務に未認識数理計算上の差異を加減した額を超えているため、前払年金費用として投資その他の資産に表示しております。  
①退職給付見込額の期間帰属方法  
退職給付債務の算定に当たり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

## ②数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異については、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生翌事業年度から費用処理しております。

## 5. 収益及び費用の計上基準

当社はテレビ及びラジオ放送事業を主な事業としております。主な履行義務は顧客との契約に基づき、視聴者及び聴取者に番組と広告を放送することであり、放送された時点で収益を認識しております。

### (会計方針の変更)

#### 1. 収益認識に関する会計基準等の適用

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等を当事業年度から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。これにより、顧客との約束が財又はサービスを他の当事者によって提供されるように手配する履行義務である場合には、代理人として純額で収益を認識しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当事業年度の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当事業年度の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当事業年度の損益に与える影響はありません。また、利益剰余金の当期首残高への影響もありません。

収益認識会計基準等を適用したため、前事業年度の貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、当事業年度より「受取手形」及び「売掛金」にそれぞれ区分表示し、「流動負債 その他」に表示していた「前受金」は当事業年度より「契約負債」に区分表示しております。

#### 2. 時価の算定に関する会計基準等の適用

「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。）等を当年度から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 2019年7月4日）第44－2項に定める経過的な取扱いに従って時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。

また、「金融商品に関する注記」において、金融商品の時価に適切な区分ごとの内訳等に関する事項等の注記を行うことといたしました。

なお、計算書類に与える影響はありません。

### (会計上の見積りに関する注記)

計算書類の作成にあたって用いた会計上の見積り及び仮定のうち、重要なものは以下のとおりであります。

#### ①繰延税金資産の回収可能性

当年度計上額

繰延税金資産 156,758千円

繰延税金負債 498,971千円

繰延税金資産は毎期、過去の課税所得の推移や将来の課税所得の見込等を勘案し、回収可能性を慎重に検討し計上しております。回収の実現性が低いと判断した場合には適正と考えられる金額へ減額する可能性があります。

#### ②固定資産の減損

当年度計上額

減損損失 8,067千円

固定資産については、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、減損処理の要否を検討しております。資産計上した放送機器等について、事業環境の悪化等で当初想定した投資回収が見込めなくなり、減損の必要性を認識した場合には、固定資産の減損処理を実施する可能性があります。

### (貸借対照表の注記)

|                   |             |
|-------------------|-------------|
| 1. 有形固定資産の減価償却累計額 | 7,522,134千円 |
| 有形固定資産の減損損失累計額    | 11,633千円    |

2. 関係会社に対するものが次のとおり含まれております。

|      |          |
|------|----------|
| 短期債権 | 15,727千円 |
|------|----------|

|      |          |
|------|----------|
| 短期債務 | 62,969千円 |
|------|----------|

3. 担保に供している資産

|      |           |
|------|-----------|
| 定期預金 | 100,000千円 |
|------|-----------|

|    |           |
|----|-----------|
| 建物 | 668,495千円 |
|----|-----------|

|    |             |
|----|-------------|
| 土地 | 1,047,429千円 |
|----|-------------|

(注) 定期預金は関係会社及び従業員の借入金の保証として担保に供しております。

建物・土地は借入金の担保に供しております。

4. 保証債務等

|      |            |          |
|------|------------|----------|
| 保証債務 | 新潟放送従業員借入金 | 25,394千円 |
|------|------------|----------|

### (損益計算書の注記)

関係会社との取引

営業取引による取引高

売上高

87,281千円

仕入高

473,950千円

営業取引以外の取引高

674千円

### (株主資本等変動計算書の注記)

1. 当事業年度末における自己株式の種類及び株式数

普通株式

1,102株

2. 当事業年度末における発行済株式の種類及び総数

普通株式

6,000,000株

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

| 決議               | 種類   | 配当金総額<br>(千円) | 1株当たり<br>配当額(円) | 基準日            | 効力発生日          |
|------------------|------|---------------|-----------------|----------------|----------------|
| 2021年6月24日定時株主総会 | 普通株式 | 22,495        | 3.75            | 2021年<br>3月31日 | 2021年<br>6月25日 |
| 2021年11月12日取締役会  | 普通株式 | 29,994        | 5.00            | 2021年<br>9月30日 | 2021年<br>12月3日 |

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの  
2022年6月23日開催の定時株主総会の議案として、普通株式の配当に関する事項を次のとおり提案しております。

① 配当金の総額

29,994千円

② 1株当たり配当額

5.00円

(普通配当3.75円 記念配当1.25円)

③ 基準日

2022年3月31日

④ 効力発生日

2022年6月24日

### (金融商品に関する注記)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、資金運用については短期的な預金等に限定し、また、資金調達については銀行借入による方針です。なお、デリバティブ取引は行っておりません。

- (2) 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク  
 営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。有価証券及び投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。  
 営業債務である未払金は、ほとんどが1ヶ月以内の支払期日であります。
- (3) 金融商品に係るリスク管理体制
- ① 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理  
 当社は、営業債権については、財務部が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。
- ② 市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理  
 当社は、財務部が有価証券又は投資有価証券について、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。
- ③ 資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払を実行できなくなるリスク）の管理  
 当社は、財務部が資金繰り計画を作成するなどの方法により流動性リスクを管理しております。
- (4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明  
 金融商品の時価の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価格が変動することもあります。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

2022年3月31日（当期決算日）における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については次のとおりであります。

（単位：千円）

|                   | 貸借対照表計上額  | 時価        | 差額 |
|-------------------|-----------|-----------|----|
| (1) 投資有価証券        |           |           |    |
| その他有価証券           | 2,932,745 | 2,932,745 | —  |
| (2) リース債務(※1)     |           |           |    |
| (1年以内に返済予定のものを含む) | (195,827) | (195,827) | —  |

(※1)負債に計上されているものについては、( )で示しております。

(注)「時価の算定に関する会計基準」等の適用に伴い、「現金及び預金」及び、短期間で決済される「受取手形及び売掛金」、「未払金」及び「設備関係未払金」は時価が帳簿価額に近似しているため注記を省略しております。

(注1)市場価格のない株式等である金融商品の貸借対照表計上額  
(単位：千円)

| 区分    | 貸借対照表計上額 |
|-------|----------|
| 非上場株式 | 107,473  |

上記については、市場価格のない株式等であるため、「(1)投資有価証券 その他有価証券」には含めておりません。

(注2)金銭債権及び満期がある有価証券の決算日後の償還予定額

(単位：千円)

|        | 1年以内      | 1年超<br>5年以内 | 5年超<br>10年以内 | 10年超 |
|--------|-----------|-------------|--------------|------|
| 受取手形   | 165       | —           | —            | —    |
| 売掛金    | 1,048,714 | —           | —            | —    |
| 投資有価証券 | —         | 175,849     | 9,684        | —    |
| 合計     | 1,048,879 | 175,849     | 9,684        | —    |

(注3)リース債務及びその他の有利子負債の決算日後の償還予定額

(単位：千円)

|       | 1年以内   | 1年超<br>2年以内 | 2年超<br>3年以内 | 3年超<br>4年以内 | 4年超<br>5年以内 |
|-------|--------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| リース債務 | 43,362 | 40,426      | 35,397      | 31,805      | 44,835      |
| 合計    | 43,362 | 40,426      | 35,397      | 31,805      | 44,835      |

### 3. 金融商品の時価に適切な区分ごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：同一の資産又は負債の活発な市場における（無調整の）相場価格により算定した時価

レベル2の時価：レベル1のインプット以外の直接又は間接的に観察可能なインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できないインプットを使用して算定した時価

① 時価をもって貸借対照表計上額とする金融資産及び金融負債

(単位：千円)

| 区分                      | 時価        |      |      |           |
|-------------------------|-----------|------|------|-----------|
|                         | レベル1      | レベル2 | レベル3 | 合計        |
| 有価証券及び投資有価証券<br>その他有価証券 | 2,932,745 | —    | —    | 2,932,745 |
| 資産計                     | 2,932,745 | —    | —    | 2,932,745 |

② 時価をもって貸借対照表計上額としない金融資産及び金融負債

(単位：千円)

| 区分                         | 時価   |         |      |         |
|----------------------------|------|---------|------|---------|
|                            | レベル1 | レベル2    | レベル3 | 合計      |
| リース債務<br>(1年以内に返済予定のものを含む) | —    | 195,827 | —    | 195,827 |
| 資産計                        | —    | 195,827 | —    | 195,827 |

(注) 時価の算定に用いた評価技法及びインプットの説明

有価証券及び投資有価証券

上場株式、公社債、投資信託を相場価格を用いて評価しております。これらは活発な市場で取引されているためそのじかをレベル1の時価に分類しております。

リース債務 (1年以内に返済予定のものを含む)

元利金の合計額を同様の新規リースを行った場合に想定される利率で割引いた現在価値により算定しており、レベル2の時価に分類しております。



**(税効果会計に関する注記)**

繰延税金資産の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産

|                        |            |
|------------------------|------------|
| 賞与引当金損金算入限度超過額         | 40,790千円   |
| 株式評価損                  | 14,509千円   |
| ゴルフ会員権評価額              | 9,807千円    |
| 繰越欠損金                  | 470,375千円  |
| その他                    | 29,342千円   |
| 繰延税金資産小計               | 564,825千円  |
| 税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額     | △382,909千円 |
| 将来性減算一時差異等の合計に係る評価性引当額 | △25,157千円  |
| 評価性引当額小計               | △408,067千円 |
| 繰延税金資産合計               | 156,758千円  |
| 繰延税金負債                 |            |
| 退職給付引当金繰入額             | △393,156千円 |
| その他有価証券評価差額金           | △105,815千円 |
| 繰延税金負債合計               | △498,971千円 |
| 繰延税金負債の純額              | 342,213千円  |

税務上の繰越欠損金およびその繰延税金資産の繰越期限別の金額

(単位：千円)

|            | 1年以内 | 1年超<br>2年以内 | 2年超<br>3年以内 | 3年超 | 合計       |
|------------|------|-------------|-------------|-----|----------|
| 税務上の繰越欠損金* | —    | 470,375     | —           | —   | 470,375  |
| 評価性引当額     | —    | △382,909    | —           | —   | △382,909 |
| 繰延税金資産     | —    | 87,466      | —           | —   | 87,466   |

\* 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

**(リースにより使用する固定資産に関する注記)**

貸借対照表に計上した固定資産のほか、事務機器、放送設備、車輛等の一部については、所有権移転外ファイナンス・リース契約により使用しております。

### (収益認識に関する注記)

#### 1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

(単位：千円)

|                       | 当事業年度     |
|-----------------------|-----------|
| 一時点で移転される財又はサービス      | 5,718,581 |
| 一定の期間にわたり移転される財又はサービス | 53,173    |
| 売上高                   | 5,771,755 |

#### 2. 収益を理解するための基盤となる情報

収益を理解するための基盤となる情報は「(重要な会計方針に係る事項) 5. 収益及び費用の計上基準」に記載のとおりです。

#### 3. 当年度及び翌年度以降の収益の金額を理解するための情報

##### ① 契約資産及び契約負債の残高等

(単位：千円)

|               | 当事業年度     |           |
|---------------|-----------|-----------|
|               | 期首残高      | 期末残高      |
| 顧客との契約から生じた債権 | 1,613,356 | 1,463,431 |
| 契約負債          | 5,810     | 9,052     |

##### ② 残存履行義務に配分した取引価額

当社においては、予想契約期間が1年を超える重要な取引はありません。また、顧客との契約から生じる対価の中に、取引価格に含まれていない重要な金額はありません。

### (1株当たり情報に関する注記)

- 1株当たり純資産額 2,065円56銭
- 1株当たり当期純利益 59円32銭

(ご参考)

**連結貸借対照表**

(2022年3月31日現在)

| 科 目                | 金 額               | 科 目                      | 金 額               |
|--------------------|-------------------|--------------------------|-------------------|
| (資産の部)             | 千円                | (負債の部)                   | 千円                |
| <b>流 動 資 産</b>     | <b>13,561,271</b> | <b>流 動 負 債</b>           | <b>4,927,136</b>  |
| 現金及び預金             | 8,628,973         | 未払金                      | 2,671,214         |
| 受取手形               | 24,792            | 短期借入金                    | 360,800           |
| 売掛金                | 3,699,048         | リース債務                    | 401,078           |
| 商材                 | 157,962           | 未払法人税等                   | 336,859           |
| 原材料                | 15,208            | 未払消費税等                   | 155,609           |
| 仕掛品                | 254,553           | 契約負債                     | 89,917            |
| その他の金              | 787,061           | 製品保証引当金                  | 51,025            |
| 貸倒引当金              | △6,328            | 賞与引当金                    | 338,036           |
|                    |                   | 役員賞与引当金                  | 21,500            |
|                    |                   | その他の                     | 501,096           |
| <b>固 定 資 産</b>     | <b>12,734,701</b> | <b>固 定 負 債</b>           | <b>1,094,680</b>  |
| <b>有 形 固 定 資 産</b> | <b>6,650,715</b>  | 長期借入金                    | 3,100             |
| 建物及び構築物            | 2,462,566         | 役員退職慰労引当金                | 94,318            |
| 機械装置及び運搬具          | 607,653           | 退職給付に係る負債                | 184,510           |
| 土地                 | 2,442,652         | リース債務                    | 685,247           |
| リース資産              | 846,578           | 繰延税金負債                   | 98,345            |
| その他の               | 291,263           | その他の                     | 29,159            |
| <b>無 形 固 定 資 産</b> | <b>389,960</b>    | <b>負 債 合 計</b>           | <b>6,021,816</b>  |
| ソフトウェア             | 210,805           | (純資産の部)                  |                   |
| リース資産              | 148,284           | <b>株 主 資 本</b>           | <b>17,487,642</b> |
| その他の               | 30,870            | 資本金                      | 300,000           |
| <b>投資その他の資産</b>    | <b>5,694,025</b>  | 資本剰余金                    | 5,750             |
| 投資有価証券             | 3,201,671         | 利益剰余金                    | 17,182,696        |
| 退職給付に係る資産          | 1,920,460         | 自己株式                     | △805              |
| その他の               | 597,757           | <b>その他の包括利益累計額</b>       | <b>310,717</b>    |
| 貸倒引当金              | △25,864           | その他有価証券評価差額金             | 244,209           |
|                    |                   | 退職給付に係る調整累計額             | 66,507            |
| <b>資 産 合 計</b>     | <b>26,295,972</b> | <b>非 支 配 株 主 持 分</b>     | <b>2,475,795</b>  |
|                    |                   | <b>純 資 産 合 計</b>         | <b>20,274,155</b> |
|                    |                   | <b>負 債 及 び 純 資 産 合 計</b> | <b>26,295,972</b> |

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しています。

(ご参考)

## 連結損益計算書

( 自 2021年 4月 1日 )  
( 至 2022年 3月 31日 )

| 科 目 | 金 額     |            |
|-----|---------|------------|
|     | 千円      | 千円         |
| 売上  |         | 21,051,059 |
| 売上  |         | 14,934,433 |
| 販売費 |         | 6,116,625  |
| 営業  |         | 4,774,326  |
| 営業  |         | 1,342,298  |
| 受取  | 6,720   |            |
| 受取  | 73,253  |            |
| 有価  | 254     |            |
| 証券  | 10,307  |            |
| 貸付  | 35,667  | 126,204    |
| 営業  |         |            |
| 支払  | 11,003  |            |
| 外   | 15,824  | 26,827     |
| の   |         | 1,441,675  |
| 経常  |         |            |
| 特別  |         |            |
| 固定  | 0       |            |
| 投資  | 260,000 | 260,000    |
| 特別  |         |            |
| 減価  | 8,067   |            |
| 固定  | 45,697  |            |
| 投資  | 2,580   |            |
| 有価  | 1,893   | 58,238     |
| 証券  |         | 1,643,436  |
| 調整前 |         |            |
| 当期  |         |            |
| 純利益 |         |            |
| 法人  | 406,349 |            |
| 税・  | 178,685 | 585,035    |
| 住民  |         | 1,058,401  |
| 税等  |         | 240,094    |
| 調整  |         | 818,306    |
| 額   |         |            |
| 当期  |         |            |
| 純利益 |         |            |
| 非支配 |         |            |
| 株主に |         |            |
| 帰属  |         |            |
| する  |         |            |
| 当期  |         |            |
| 純利益 |         |            |
| 親会  |         |            |
| 社株  |         |            |
| 主に  |         |            |
| 帰属  |         |            |
| する  |         |            |
| 当期  |         |            |
| 純利益 |         |            |

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しています。

# 会計監査人の監査報告書 謄本

## 独立監査人の監査報告書

2022年5月9日

株式会社 新潟放送  
取締役会 御中

新宿監査法人（東京都新宿区）

指定社員 公認会計士 壬 生 米 秋  
業務執行社員  
指定社員 公認会計士 末 益 弘 幸  
業務執行社員

### 監査意見

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、株式会社新潟放送の2021年4月1日から2022年3月31日までの第92期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書（以下「計算書類等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の計算書類等が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類等に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「計算書類等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の計算書類等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

計算書類等の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と計算書類等又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

#### 計算書類等に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類等を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

計算書類等を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき計算書類等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 計算書類等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・計算書類等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として計算書類等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業的前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業的前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において計算書類等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類等の注記事項が適切でない場合は、計算書類等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・計算書類等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算書類等の表示、構成及び内容、並びに計算書類等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

## 監査役会の監査報告書 謄本

### 監査報告書

当監査役会は、2021年4月1日から2022年3月31日までの第92期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づく審議の結果、監査役全員の一致した意見として本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

#### 1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

- (1) 監査役会は、監査方針、監査計画等を定め、監査役の監査実施状況の報告、監査意見の交換、取締役会の議題等の審議を行うほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。
- (2) 各監査役は、監査役会が策定した監査役監査基準に準拠し、監査方針、監査計画等に従い、取締役及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境整備に努めるとともに、以下の方法で監査を実施しました。
  - ① 取締役会その他重要な諸会議に出席し、取締役等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明しました。また、重要な決裁書類等を閲覧し、全ての事業所において業務及び財産の状況等を調査したほか、子会社の取締役等と意思疎通を図り、事業の報告を受けるとともに、必要に応じて説明を求めました。そして、関係会社の監査役とはグループ監査役連絡会を開き、情報交換を図りました。
  - ② 取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社及びその子会社から成る企業集団の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）に関しては、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について報告を受け、必要に応じ説明を求め、意見を表明しました。
  - ③ 会計監査人による当社及び子会社の監査において、インターネット等を経由した手段を活用しながら、その職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、会計監査人が独立の立場を保持し適正な監査を実施しているかを監視及び検証しました。また、会計監査人から会社計算規則第131条に基づく職務の遂行に関する報告を受け、必要に応じて説明を求めました。



以上の方法により、第9 2期事業年度に係る事業報告及びその附属明細書並びに計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書について検討いたしました。

## 2. 監査の結果

### (1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為または法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であり、当該体制の整備及び運用の状況について指摘すべき事項は認められません。

### (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人新宿監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

2022年5月12日

株式会社新潟放送 監査役会

|       |      |   |
|-------|------|---|
| 常勤監査役 | 小原弘志 | Ⓜ |
| 監査役   | 高橋道映 | Ⓜ |
| 監査役   | 瀬賀弥平 | Ⓜ |
| 監査役   | 和田晋弥 | Ⓜ |

(注) 監査役瀬賀弥平及び監査役和田晋弥は、会社法第2条第16号及び第335条第3項に定める社外監査役であります。

以上

< メモ欄 >

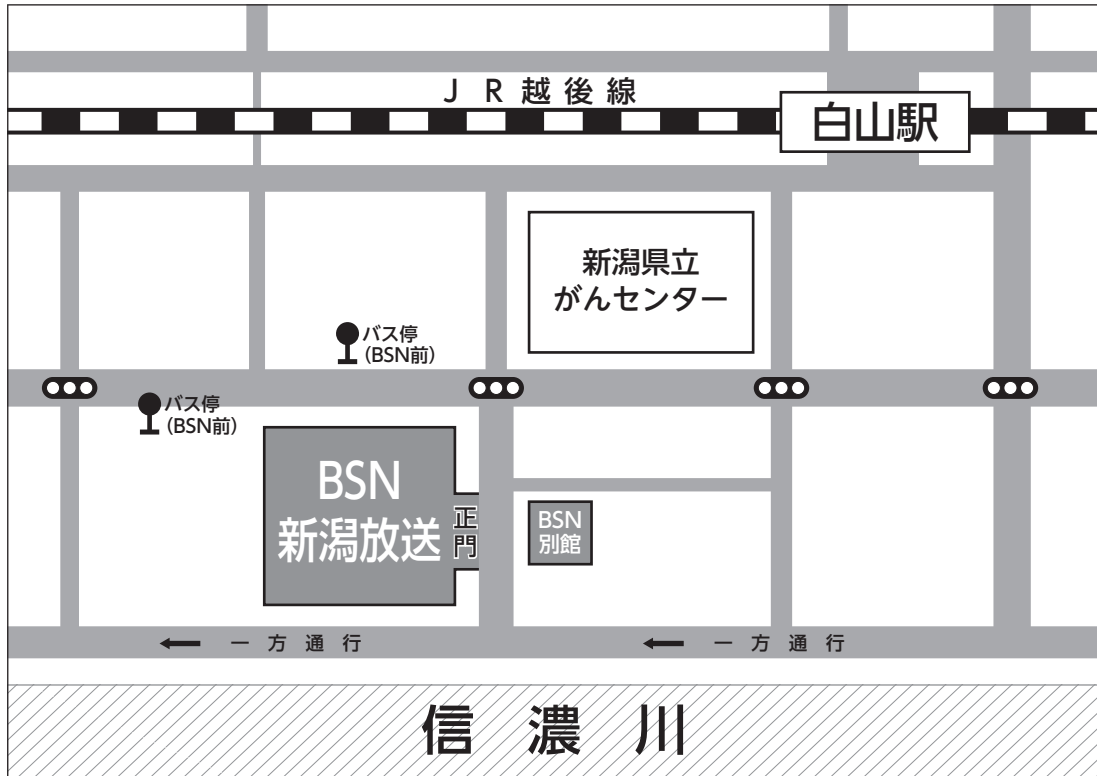
A large empty rectangular box with a dashed border, intended for a memo.

< メモ欄 >

A large, empty rectangular box with a dashed border, occupying most of the page. It is intended for a memo or note.

# 株主総会会場ご案内略図

【会 場】 株式会社新潟放送 本社 1階 ラジオ第1スタジオ  
新潟市中央区川岸町3丁目18番地 ☎ (025) 267-4111



新潟駅（上越新幹線）からタクシー…約15分  
白山駅（JR越後線）南口から…徒歩約5分  
バス停（新潟交通）BSN前から…徒歩約1分

- \* 本年も、ご出席株主様へのお土産を取り止めさせていただきます。
- \* 駐車場には限りがございますので、ご来場の際にはできるだけ公共交通機関をご利用ください。